

日本リモートセンシング学会九州支部・日本リモートセンシング学会実利用委員会・
九州航空宇宙開発推進協議会宇宙利用プロジェクト創出研究会宇宙利用グループ 共催
「平成25年度リモートセンシング実利用シンポジウム」の実施報告

平成26年2月22日
九州支部長 多炭雅博

平成26年1月31日13:30-17:30の日程で、佐賀大学理工学部6号館において平成25年度リモートセンシング実利用シンポジウムを開催した。本シンポジウムではリモートセンシング技術の実利用化への取組について、九州各県での研究および実務事例紹介を中心に、実利用委員会における取組状況やRESTECの活動も含め、計7名の講師による紹介がなされた。

まず実利用委員会委員長の赤松様より、実利用委員会の活動概要紹介と今後の展望について講演頂いた。続いて長崎大学森山先生、富士通株式会社吉岡様、関西学院大学石川先生、長崎総合科学大学石黒先生、佐賀大学新井先生より、それぞれ九州各県におけるリモートセンシング技術の農業及び水産業分野での研究成果や活用事例を紹介頂いた。最後にRESTEC 祖父江様よりRESTECにおけるソリューションサービス事例を概説頂いた。各講演は、研究・技術開発、商用化、産官学連携と学会の役割、課題の共有や将来に向けての提言まで広範囲の内容をカバーし、産官学からの40名を超える参加者にとってどれも興味深く、非常に有益なものであった。

リモートセンシング技術の実利用化・商用化は、重要かつ解決すべき課題も多いテーマである。今回のシンポジウムをとおして、リモートセンシング技術が農林水産物の生産管理や安定供給、高付加価値化、ブランド化に着実に貢献しつつあることがわかり、将来のリモートセンシング技術の一層の発展及び社会貢献に手ごたえを感じることができた。九州地域における実利用コミュニティ形成のきっかけにもつながった。企画運営を総括頂いた新井先生はじめ関係各位、また貴重な話題提供を頂いた講師の皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

<添付資料>

添付1： プログラム

添付2： 会場写真

添付1：プログラム

リモートセンシング実利用シンポジウム プログラム

日時：平成26年1月31日(金) 13:30-17:30

場所：佐賀大学理工学部6号館

13:30-13:35 主催者挨拶

13:35-13:55 日本リモートセンシング学会における実利用推進の取組み状況と今後の展望
赤松幸生(日本リモートセンシング学会副会長／実利用委員長)

13:55-14:25 五島のツバキ林管理技術構築のための衛星データ利用の試み
森山雅雄(長崎大学)・前田一・田嶋幸一

14:25-14:35 休憩

14:35-15:05 鹿児島におけるリモートセンシングの商用化について
吉岡英行(富士通株式会社)・澤根慎児・安田小百合・平山慎作・吉田正巳

15:05-15:35 分光分析手法による農作物の生育・品質推定、-鹿児島の茶、水稲の事例-
石川大太郎(関西学院大学)

15:35-16:05 水稲の肥培管理に及ぼすリモートセンシングの貢献
リモートセンシング技術を用いた経済的肥培管理システム開発に向けた実験
吉田貴樹(BIZWORKS)・木原武彦・沖一雄・石黒悦爾・森山雅雄

16:05-16:15 休憩

16:15-16:45 リモートセンシングによる茶・海苔・米生育・品質評価、-ビジネスモデルの展開
新井康平(佐賀大学)

16:45-17:15 RESTEC におけるソリューションサービス事例
祖父江真一(RESTEC)・向井田明

17:15-17:20 閉会挨拶

18:00- 懇親会

添付2：会場写真



会場風景



熱心な質疑応答



シンポジウムでの議論の続きは懇親会で